

大和郡山の文化財調査

建造物研究室・平城宮跡発掘調査部・埋蔵文化財センター

大和郡山市の城跡および旧城下町等の、保存と活用のための構想策定に関する調査で、市が環境事業計画研究所に委託し、当研究所がこれに協力した。調査は昨年度から継続して行われ、当研究所は、主に城下の文化財調査とそれらの評価にかかる事項を担当した。また構想計画策定にあたり、文化財保護と活用の観点に立って指導・助言した。

昨年度の調査で、大和郡山市の旧城下地区の都市基盤は、近世のものを踏襲していることが判明した。しかし、現状ではそれらが十分に保存・活用されているとは必ずしも言い難く、例えば外堀や水路のように、このまま放置すれば消滅する危険性がある要素も多い。従って市の目標である歴史ある緑豊かな町づくりにあたって、その軸となる文化遺産の保存と活用のための構想計画を策定することが急務となっている。本年度は、一部補足調査のほか、昨年度の調査結果の分析及び文化遺産の保全整備へむけての評価に重点を置いた。

城下の文化財調査は、次の三項目に大別することができる。

(1) 城下骨格調査 ……堀・土塁・水路・道路網、城下土地利用・町割等の復原と変遷調査。

近世の城下絵図に基づいて現地調査を行ない、1/2500地形図に城下の復原及び遺存状況を図示した。補足調査として、開発の著しい地区で、堀及び土塁の位置の確認や、変遷過程を追跡するため、正保年間と貞享年間の城下絵図の複写及び土地台帳や明治の地籍図等基本的資料の収集とともに、土地改良区(水利組合)に聞き取り調査を行なった。

(2) 城郭関連調査 ……城内の復原的考察及び遺存状況調査、城内植生調査、石垣調査。

城内の復原的考察のため、江戸末期の城郭絵図の複写等関連資料を収集した。

(3) 建造物調査 ……町家・町並調査、町の動向調査、武家屋敷関係遺構及び社寺建築調査。

補足調査として、本町筋の連続立面実測、新中町及び洞泉寺町の町家等の建築的調査、旧五軒屋敷地に遺存する長屋門の実測調査及び関連資料収集を行なった。

このほか、旧城下に居住する児童(高学年)、生徒(中学生)を中心に、城下の文化財に対する意識調査を行ない資料を得た。

文化遺産の評価にあたっては、個々の文化財の観点にとどまらず、景観的特質、地区構成及び都市構造からの位置付け、構想計画策定における重要性と計画上の意義等の観点から、多角的に行なっている。以下に評価の概要を記す。

1. 城下骨格の評価

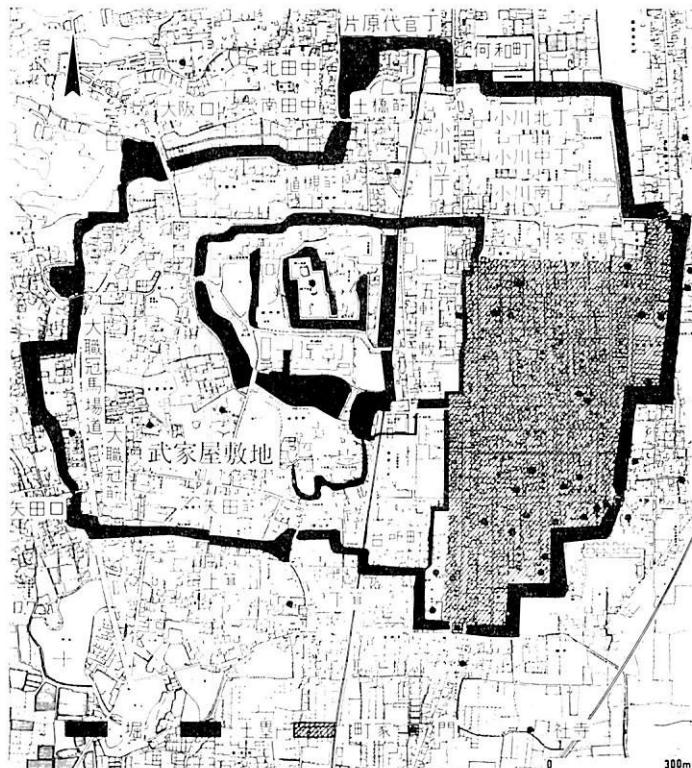
城下の骨格を規定する諸要素のうち、堀や土塁は城下の領域を示す重要な意味を持つ。特に堀は水路と共に、古来周辺農村地域へ用水を供給する重要な施設であって、今日なお、農業及び地場産業である金魚養殖のための用水供給機能を持つ。また土塁は、遺存状況は良好でないものの堀と共に当時の土木技術を知る重要な遺構であり、今日では緑地としての意味も持つ。

今後は水辺地公園、防災施設など他機能の兼用も考えられ、構想計画のなかで重要な位置を占める。

2. 地区の評価

惣堀内は、城郭地区・武家屋敷地区・町人地区にゾーニングされていた。旧城郭地区は、郡山の都市空間を規定する根本となるものである。本丸、二の丸等の遺存度は高く、往時の勇姿を想起させている。今日では市民にとって憩の場ともなり、物理的・精神的に極めて重要な意味を持つ。

城跡は現在都市計画公園に指定されており、歴史的



城下復原図

背景を生かした保全整備を計るべき公的地区としても極めて価値が高い。武家屋敷地区は、かつての面影はない。しかし、城内や市の中心部に近い丘陵地にあり、地理的・地形的条件に恵まれており、優良住宅地として開発される余地を十分に残している。町人地区は、城郭の東南に広がる平地に形成されている。郡山城廃城後も町として連綿と続き、形成時の町割・道路網・水路網もよく遺存している。また各町名も形成時のものが依然使われ、地区形態も比較的旧状をとどめている。大和郡山市の三極構造(歴史的地区・新興住宅地区・工業団地地区)の一翼を担う主要な拠点でもあり、構想計画策定にあたって極めて重要な意味を持つ地区である。

3. 建造物の評価

長屋門、町家建築、社寺建築等は、それぞれ個有の歴史的、学術的、技術的価値を持っている。またそれらは地区構成の重要な要素であり、景観的にも秀れた地区も少なくない。従ってそれが歴史的背景を生かした市街地整備の有力な手掛りにもなり得る。例えば旧五軒屋敷の長屋門は、城内への道筋にあり視覚的にも重要な位置にある点から、城内と一体の整備が期待される。町人地にある町家(空屋)の幾つかは、有効な活用方法を探り出すことによって、地区活性化の有力な拠点になり得る資質を備えている。また社寺建築の多くは、地区的象徴ともなっている。とくに境内地が外堀と隣接する社寺では、堀と一体的な整備を計ることにより、有意義な公的空間を確保することができる。

(亀井伸雄・本中 真)